

ごみが最後にたどりつく場所、神戸沖埋立処分場をレポートします

市廃棄物減量等推進審議会委員の石橋さん、佐藤さんが、大阪湾フェニックスセンターの原田参事にお聞きしました。

フェニックス計画とは

「今日は、私たちが出しているごみが最後に行きつく先である埋立処分場を見学に来ました。」

まず、大阪湾フェニックス計画について教えてください。

原田 計画には二つの大きな目的があります。一つは、近畿2府4県の一般家庭から出るごみや、工場、工事現場から出るごみを適正に埋立処分し、生活環境の保全を図ることです。もう一つは、埋立てによってできた土地を活用し、港を整備し

て地域の発展に役立てる事です。

「フェニックス計画」の名称は、廃棄物の焼却灰などによって埋め立てられた土地が、緑いっぱいの大地として再生することを願って名付けられたものであり、この計画に基づきセンターでは他に例のない全国唯一の団体として事業を行っています。現在、168市町村、約2千万人のごみを受け入れています。

埋立処分場では

「灰などをどうやって埋め立てい

るのですか。」

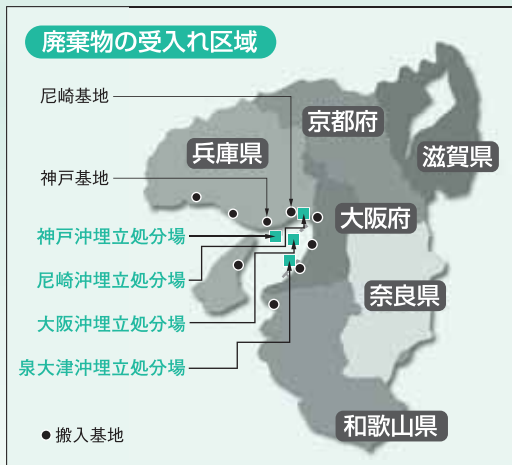
原田 搬入基地で灰などを受け入れて、そこから船に積み込んで埋立処分場に運びます。基地は9つ、処分場は4つあります。

「国崎クリーンセンターから出た灰などは、どこに埋め立てられているのですか。」

原田 ニ崎基地に運ばれた後、平成13年まで尼崎沖埋立処分場に埋め立てていましたが、満杯になったため、平成14年以降は、神戸沖埋立処分場に埋め立てています。



処分場を見学する、佐藤さん(左)と石橋さん(右)



排水処理について質問する石橋さん

ごみは燃やしたら、消えてなくなるわけではないんです。

「神戸沖埋立処分場にはどのくらいの量を埋め立てられるのですか。」

原田 1500万㎡、面積が88haで、甲子園球場の22倍の広さです。

「随分と広いですね。まだまだ埋め立てられそうです。」

原田 いえいえ、ここ神戸沖は現在もうすでに64%が埋め立てられています。埋立てには限りがあるんですよ。

今後の課題

「今後の処分場がいっぱいになってしまったら新しい処分場を造らなければ

ば困りますね。」

原田 新しく造るにも建設から開業まで10年、経費は約900億円がかかります。

「900億円ですか。国崎クリーンセンターの建設総事業費が210億円という事ですからその4倍以上です。」

原田 それに、まだ次の建設候補地が決まっています。今ある処分場を長持ちさせることが大きな課題です。

「今後の処分場を大切に使うためにも、私たち一人ひとりがごみを減ら

さなければなりませんね。」

原田 ごみは焼却したらなくなるわけではありません。最後に行きつく先まで意識していただけたらと思います。

処分場の見学だけでなく、出前講座も行っていますのでご利用ください。

■処分場の見学・出前講座の案内

●一般見学 毎月第2火曜日

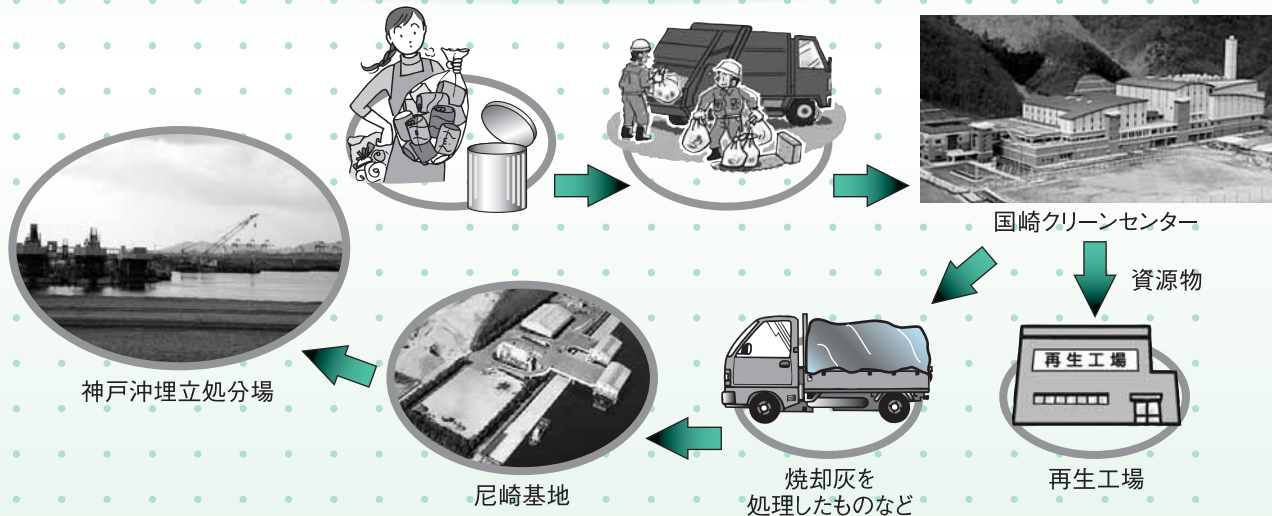
●詳細は、兵庫建設事務所

フェニックス講座

詳細は、フェニックスセンター総務課

（☎0662041721）へ

ごみはどこへいくの? ~ごみの旅~



「何気なく出しているごみが、最後には神戸沖まで来ているんですね」

神戸沖埋立処分場を見学して

海域環境の保全を最優先に、安全に埋立処理されることが分かり、安心しました。埋立処分場に恒久的に埋め立てられるわけではなく、埋立てには限界があり、最終処分場を確保するためにも、一人ひとりがごみを減らさなければならぬとあらためて思いました。(石橋)

ひとり言
ゴミでさえも社会に役立っている。私もゴミに負けずいくつになっても、社会に貢献したいなあ。

土も水も常に検査し環境に十分配慮されていることなど、実際に説明を聞かせていただけてよく分かりました。完成後の土地の活用は確定されていないようですが、埋立処分場からは大阪南港、明石海峡大橋や淡路島まで見渡すことができる素晴らしいロケーションです。大人も子どもも楽しめる夢のある施設がいつかできたらいいなと思いつきながら現地をあとにしました。(佐藤)